

11月9日は「119番の日」

応急手当の協力をお願いしています

「119番の日」は、消防への正しい理解と認識を深め、防火防災意識の高揚を図ることを目的として1987年に消防庁が制定しました。119番通報を的確に行うことは、迅速な消防活動、そして命を守ることにつながります。突然の事故や病気、特に心肺停止など重篤な場合、ただ救急車を待つだけでは命が助かる可能性が低くなってしまいます。

消防では、119番通報の内容から必要と判断した場合、その場に居合わせた人に応急手当を実施してもらうために「口頭指導」を行っています。

口頭指導とは

消防の通信指令員が119番通報してきた人に対して、通報内容から傷病者の状態を判断し、救急車が到着するまでの間に何らかの対応が必要であると判断した場合に行うものです。その状況に即した具体的な応急手当の方法を口頭で指導し、応急手当の協力をお願いします。

このような通報内容の時は、口頭指導を行っています

- 「意識・呼吸がない」「喉に物が詰まって窒息している」
- 「出血がずっと続いている」「やけどをしてしまった」
- 「作業中に指を切断してしまった」



安芸高田市でも、口頭指導と応急手当で助かった命があります

ゴルフ中に倒れた男性を、連携プレーで救命

ゴルフ場でプレー中の男性が突然倒れ、仲間がゴルフ場に救急車とAED(自動体外式除細動器)を要請しました。従業員の119番通報を受けた通信指令員は、救急車を出勤させるとともに、心肺蘇生法を口頭指導しました。従業員とその場に居合わせた人が協力し、迅速かつ的確な応急手当を実施したことで倒れた男性は一命を取り留め、社会復帰されています。



毎月一回 定期開催
普通救命講習

開催日時 | 11月19日(日) 9:00~12:00 [申込締切 11月12日(日)]
お問い合わせ | 警防課 救急係 ☎42-3952



安芸高田市消防本部・安芸高田消防署 ☎42-0931・お太助フォン 42-3952 ☎47-1191



安芸高田 歴史紀行



シリーズ「博物館コレクション」第26回

男山神社 木造狛犬



吽形/像高:34.8cm

阿形/像高:35.2cm



狛犬
主に神社に置かれ神域を守っている霊獣です。この場合の「狛犬」は総称で、向かって右側で口を開く阿形(あきよう)の獅子と左側で口を閉じる吽形(うんぎよう)のある狛犬の組み合わせが基本形です。両者に造形的な大差はありませんが角の有無が決定的な違いです。しかし実際には獅子同士の組み合わせ

わせも多くあります。この場合正確には獅子二対ですが、一般的にはやはり「狛犬」と呼ばれています。材質も木・石・焼き物・銅とさまざまですが、神前に置かれた木造がやがて神前の外、軒下の階上、さらには境内に置かれるようになったのに伴い風化防止のために石像に変化していくのが大きな流れのようです。

男山神社狛犬

ひのき材の寄木造りで、木釘によって留められています。両像とも尻尾はすでに失われ、彩色は一部を残し剥げ落ち、下地の白い顔料が残ります。

阿形のたてがみは巻き毛で参拝者に顔を向けているのに対し、吽形はたてがみが直毛で正面を向いています。角の形跡はないため、獅子と獅子の組み合わせといえます。

制作年を記すものはありませんが、たてがみの流れ、盛り上がる胸や前足の筋肉などから室町時代末期の制作と推定されています。稚拙さはなく、小型ながら安芸高田市を代表する狛犬です。

男山神社(吉田町)は、毛利隆元(1523~1563年)が勧請(神の分霊を別の神社に迎えること)し1547(天文16)年に社殿を建立したと伝わり、この狛犬の制作時期と一致します。

隆元が元就から家督を譲られたのはこの頃で、毛利家発展のため、当主として参拝に訪れる隆元の姿を見ていたのかもしれない。